

令和6年度第2回府中市地域公共交通協議会会議録（要旨）

- 日時 令和6年12月16日（月）午前10時～午前11時20分
- 場所 府中駅北第二庁舎3階会議室
- 出席者
 - 委員
 - 委員出席者15名、代理出席者2名、会場出席者計17名

区分	委員名	出席	備考
学識経験を有する者	もりもと あきのり 森本 章倫	○	
	おかむら としゆき 岡村 敏之	○	
公共交通事業を行う者又は公共交通関係団体の構成員	くらしな だいち 倉科 大地		
	にぎりさわ まさし 濁澤 雅		代理 野村氏
	いわさわ たかあき 岩澤 貴顕	○	
	みうら ゆうすけ 三浦 裕介	○	
	ふるや ひろぶみ 古谷 弘文	○	
	いし い まさみ 石井 正己	○	
	ひらの けいいち 平野 景一	○	
関係行政機関の職員	さとう よしひさ 佐藤 義尚	○	
	なかやま としお 中山 俊夫		代理 五十嵐氏
	たけやま のぶゆき 武山 信幸		
	いぬたけ みきと 犬竹 幹人	○	
	なかはら つよし 中原 幹	○	
福祉関係団体の推薦する者	こまち しのぶ 小町 篠	○	
	のだ かずひこ 野田 和彦	○	
	かわい あや 河井 文	○	
公募による市民	きたむら のぞみ 北村 のぞみ		
	はやしだ あゆみ 林田 あゆみ	○	
府中市の職員	まつむら ひでゆき 松村 秀行	○	
合計		15	

事務局 4名

三浦計画課交通企画担当主幹、山下部計画課交通企画担当主査
小野崎計画課主任、荒井計画課事務職員

委託業者 2名

株式会社建設技術研究所

■ 議事次第

1 開会

2 議題

地域公共交通ネットワーク再編案について

移動手段転換と運賃設定の考え方について

府中市地域公共交通ネットワーク再編計画（素案）について

地域公共交通ネットワーク再編計画（素案）に関するオープンハウスについて

3 その他

4 閉会

■ 公開・非公開の別 公開

■ 傍聴者 8名

■ 会議内容

2 議題 の「地域公共交通ネットワーク再編案について」は、事務局より資料を説明し、内容について了承された。

2 議題 の「移動手段転換と運賃設定の考え方について」は、事務局より資料を説明し、今後の具体的な運賃検討にあたっては、協議会としての方針決定や運賃協議会での具体化を経ることを前提に、考え方について了承された。

2 議題 の「地域公共交通ネットワーク再編計画（素案）について」は、事務局より資料を説明し、内容について了承された。

2 議題 の「地域公共交通ネットワーク再編計画（素案）に関するオープンハウスについて」は、事務局より資料を説明し、内容について了承された。

■ 会議録

○ 事務局

皆様こんにちは、計画課交通企画担当主査の山下部でございます。開会に先立ちまして事務局からご案内いたします。

はじめに都市整備部計画課交通企画担当主幹の三浦よりご挨拶申し上げます。

○ 事務局

改めまして委員の皆様こんにちは。府中市都市整備部計画課交通企画担当主幹の三浦と申します。本日はお忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。本日は地域公共交通ネットワーク再編案などにつきまして、委員の皆様より貴重なご意見を賜りたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○ 事務局

それでは、本日の資料の確認をお願いします。

(資料確認)

○ 事務局

続きまして、人事異動により一部の委員に変更があったので、お手元の委員名簿をご覧ください。小田急バス株式会社の古谷様は、改めて10月に委員として委嘱させていただきました。それでは古谷様より自己紹介いただければと思います。よろしくお願いします。

(古谷委員挨拶)

○ 事務局

ありがとうございました。本日は地域公共交通ネットワーク再編に係る委託事業者の(株)建設技術研究所のスタッフが本会議に同席させていただきますので、ご了承願います。

また議事録作成のため、本会議の録音や記録用の写真撮影をさせていただきますので、合わせてご了承願います。以降の議事進行につきましては、会長の森本委員にお願いしたいと思います。それではよろしくお願いいたします。

○ 会長

ただいまから令和6年度第2回府中市地域公共交通協議会を開催します。

最初に本日の出席状況につきまして、事務局から報告をお願いします。

○ 事務局

委員の出席状況についてご報告します。倉科委員、北村委員、武山委員は欠席とのご連絡をいただいております。濁澤委員、中山委員につきましては欠席とのご連絡をいただいております。それぞれオブザーバーとして京王電鉄株式会社の野村様、国土交通省関東運輸局東京運輸支局の五十嵐様にご出席いただいております。

なお、定足数に達しているため、本日の会議は有効となります。出席状況につきましては以上でございます。

○会長

続いて傍聴者についての報告をお願いします。

○事務局

令和6年12月1日広報で公表したところ、10名の傍聴希望があり、8名が来場されていますのでご報告します。

○会長

傍聴希望者がおりますので許可してよろしいでしょうか。

(異議なし)

○会長

傍聴者の入室までしばらくお待ちください。

(傍聴者入室)

○会長

それでは事前にお送りしました次第に従いまして議事を進めます。議題の地域公共交通ネットワーク再編案について、事務局より説明をお願いします。

○事務局

(資料1に基づき説明)

○会長

ありがとうございました。それでは本件について皆様よりご質問、ご意見を願います。運転士の確保など大変厳しい状況の中で、バスネットワークの合理化とワゴンの導入という形でなんとか再編案を作成いただきました。

○副会長

説明は事務局の通りと認識していますが、部会のメンバーでもありますので、私の意見も含めて補足します。

できるだけ30分間隔を維持するという説明があり、ちゅうバスをご利用になっている方はわかると思いますが、30分での等間隔運行がわかりやすいというのが支持されていると思います。30分間隔を崩さざるを得ないところはありますが、できるだけ崩さないようにするとこのような再編案になります。一番良くないやり方は、どの路線も運行間隔を減らして平等に細くしていくことで、これは誰もハッ

ピーになりません。結果として、全く変わっていない路線、ほぼ変わっていない路線、一部がなくなってしまう路線もありますが、なくなる場合には代替手段があるなど、トータルでいえば、不便になるよりも便利になる面もあります。先ほど非常に厳しい状況だというお話もありましたが、実はそれほど悪くない案だと思っています。

個々の路線の内容としては、若干ルートが冗長なところや、バス停の設置箇所の協議が残っているため、ルートが一部変更になる可能性もあるかと思います。例えば、郷土の森ルートの中央道側道のあたりはもう少し考えてもいいかと個人的に考えています。

○会長

岡村副会長には部会長として取りまとめいただきありがとうございます。おっしゃる通り、良くなっているところもあり、細部についてはこれから調整するところもあります。他にご意見はありますか。

○委員

前回までは運転士不足のため先行きが厳しいとお伺いしていましたが、今回資料を拝見したら、あまりルートも変わらず、一部運行間隔が長くなるところもあるにせよ、ほぼ30分間隔が維持されており、とてもご苦労されたのだと思います。ありがとうございます。

一点質問で、ワゴンタイプの車を導入することについて、車両は運行事業者と府中市のどちらが管理するのか、また運転士の確保を委託という形でバス会社をお願いするのか、タクシー会社をお願いするのか伺います。

○事務局

ワゴン車両について、バス運転士不足のため、車両管理も含めてバス事業者をお願いすることは難しい状況です。今回はタクシー事業者の方に相談させていただき、運行から車両の管理までをコミュニティバスと同様に補助事業として実施するのが基本スキームだと思っています。この件に関しては近隣自治体でも同様の事例があるので、それらをベースに検討、調整していきます。

○委員

ワゴンタイプの場合は、車椅子で乗車できるのでしょうか。

○事務局

近隣の事例をみると、ワゴンタイプの車両で後ろから車椅子を入れてベルトで固定するという形で導入しているところが多いため、同様の形で進めたいと考えています。

○会長

部会に参加いただいた方など、補足があればお願いします。

○委員

今回こういった形で事務局や委員の皆様にも再編案を取りまとめていただき、感謝申し上げます。バス事業者の運転士不足が厳しい中で、ワゴン車両の活用が非常に大きなポイントであると思っています。利用者数から見るとバスでなくても乗りきれ、そういった路線を抽出して、別の手段を導入するということは、限りある人的資源を効率的に配分するという点で理にかなった再編案だと考えています。それでも乗り切れない部分があり、今回路線バスからコミュニティバスになる四谷エリアや郷土の森周辺は、朝夕の通勤時のほか、郷土の森については季節によって利用の波があります。そのようなところは、臨時系統と呼んでいます。路線バスをイベント時のみ走らせるような対応も検討し、必要最小限で効率的に利用者を輸送できる体制を構築したいと考えています。

○会長

ありがとうございました。議題 は了承としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○会長

それでは議題 の移動手段転換と運賃設定の考え方について、事務局より説明をお願いします。

(資料2に基づき事務局が説明)

○会長

ありがとうございました。皆様からご意見はありますでしょうか。

○副会長

運賃協議会の手続きに関して、地域公共交通協議会の場で運賃は決定しないというのが今のルールとなっています。一方で、先程の説明にあった割引等の考え方や、現在の運賃から1.5倍というのは具体的にどの程度かということは、地域公共交通協議会の場で議論するべきだと思っており、この場でどの程度の熟度で議論をするのかを確認したいです。

○事務局

運賃に関する議論を地域公共交通協議会でどの程度行うかということについて、資料2の4ページに運賃設定の考え方を記載していますが、どの程度値上げが必要なのかや、路線バスとの比較、値上げによる逸走率に関しては、運賃協議会よりも先にこの協議会でご意見をいただく必要があると考えています。それに合わせて、割引の考え方についても、コミュニティバスだけでなく、路線バスも含む、市内の公共交通の体系としてどのようにあるべきなのか、協議会で議論する必要があると考えています。どの程度話を進めていくのかについては、その運賃協議会の設立趣旨とずれない範囲で今後関係機関等に確認しながら検討したいと考えています。

○会長

今の事務局からの説明にもありましたが、地域公共交通協議会は全体の方向性を決める場なので、路線やサービス水準の考え方、ちゅうバスの今後の在り方、運賃収入の考え方はこの場で議論し、ご了承をいただく形になります。決定は運賃協議会において行うことになり、現在の運賃から2倍3倍というような、地域公共交通協議会での議論と全く違う内容が出てきた場合は我々も対応する必要がありますが、そうならないような大枠を決めるという流れになると思います。

○委員

そもそものちゅうバスの導入目的として、移動困難な方や交通不便地域の移動手段を確保することがありますので、値上げはやむを得ないと思いますが、当初の運行目的を鑑みて、移動困難者の移動手段を確保するための割引の考え方となるよう検討していただきたいというのが、私の意見です。

○副会長

市民、議会を含めて大きな関心は、シルバーパスとの関係で70歳以上の方の運賃をどうするかということになると思われます。そこはかなり丁寧に論点を整理する必要がありますし、議会への説明やフィードバックもいただきながら、丁寧に議論をすすめる必要があると考えています。

そのうえで、利用者アンケート調査で年齢構成も出ていますが、一般のバスに比べてちゅうバスは高齢者の利用割合が高くなっており、ターゲットとしている方を割引するのが大事と考えることも、ターゲットの方を割引してしまうと収入が確保できないと考えることもできます。これはどちらが正しいということではなく、皆様の合意を得られるよう丁寧に議論したいところです。

個人的には、現状の100円が300円になるのであれば、大幅な割引を検討する必要がありますが、数十円程度の値上げであれば、むしろ広く薄く負担していただくという考えもかなり重要だと思います。30分間隔での運行が重要なちゅうバスのサービス水準だと考えると、大事なことはそれを維持していくことであり、安く乗れるというのはそのサービス水準を維持した上での話で、安いことが大事になってしまうと本末転倒になると思います。

○会長

ありがとうございました。私も岡村副会長の意見に賛同します。
重要なテーマですが、他にいかがでしょうか。

○委員

運賃協議会における運賃の議論に関して、複数の事業者が直接集まり運賃について議論するのは、独占禁止法上のカルテルの疑義が生じるということで問題視されています。今回の場合は、自治体としてどの程度の運賃が適切かということが鍵になり、事業者と自治体で個別に協議し、その協議結果をとりまとめたうえで、自治体の考えとして運賃の案を協議会にお示しいただくのは問題ないと思っています。

先ほど岡村先生も仰っていた通り、地域公共交通協議会の中で運賃の考え方をある程度まとめていただいたうえで、運賃協議会にかけるといった流れがいいように思います。

○委員

私は障害者手帳を持っているので、普通のバスでも半額ぐらいで乗車することができますが、現状の１００円から１５０円程度の値上げであれば許容できるかなと考えています。

○会長

ありがとうございます。最後に一点、基本的な運賃の考え方や、どういう方向性で運賃を改正していくのかというのは、運賃協議会ではなく地域公共交通協議会で議論すべきと考えています。政策的にどういう人たちにどういう割引制度を作るのかという方針は、地域公共交通協議会で議論し、具体的な運賃は運賃協議会でという役割分担を整理しながら進めていただければと思います。

○会長

こちらの議題について了承としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○会長

それでは議題の府中市地域公共交通ネットワーク再編計画(素案)について、事務局より説明をお願いします。

(資料３に基づき事務局が説明)

○会長

ありがとうございました。それでは皆様からご質問、ご意見はいかがでしょうか。

○副会長

資料３の８１ページ「移動手段転換の考え方」について、資料２の議論ではあまりご意見が出ませんでした。基本的にこの考え方でよいと思いつつ、精査が必要な箇所もあります。例えばハッチがかかっている「バス以外の移動手段の検討」で、小型乗合車両の収支率として２０％が妥当なのかということや、２０％でよいとしても、例えば今のちゅうバスは１２時間３６５日運行している一方で、ワゴン車両が１日８時間かつ平日のみの運行であるとして、運行時間は半分程度になるので、同じ収支率２０％でも、財政指数としては半分程度になります。他の市だと、収支率だけでなく、１人当たり運行コスト、１台当たり人数、１ルート１台あたりの最大行政支出額の上限など、いろいろな指標を設定しています。ワゴンに転換する区間は、収支率２０％以上が見込めて実証実験ができるのかどうかという程度の利用レベルですので、ここはもう少し丁寧に作りこんだほうがよいように思います。

また、質問として、収支率 20 % の設定の考え方について根拠等があれば教えてください。

○事務局

今回の再編でワゴンに変換しようとしている区間の収支率に関して、試算の結果、ちゅうバスから転換するよつや苑西循環では収支率 20 % 程度は確保できる見込みのほか、新府中街道ルートに関しても概ね 20 % 程度となったため、今回の再編での試算結果から収支率 20 % と設定しています。

○会長

ありがとうございました。他にご意見はいかがでしょうか。

○委員

資料 2 の 2 ページに関して、補助金額が年々上がっている状況ということで、平成 29 年度の実績では補助額約 1 億 3 千万円で収支率 60 % ですが、令和 7 年度要望での収支率は 49 % となっています。収支率 60 % を確保するという目標があったように思いますが、60 % を確保するためには運賃の値上げが必須なのでしょうか。または経費の削減により達成する見込みはあるのでしょうか。

○事務局

令和 7 年度要望の収支率 49 % は、運賃 100 円とした場合の収支率となっています。経費の削減ができるかについてですが、人件費を確保して待遇改善することで人員不足を解消しようとする事業者の対応もあり、経費は年々上がっています。これ以上経費を減らそうとする場合には、運行頻度を減らす、運行台数を削る、路線長を短くするといった対応になり、今回はそのようなことも含めて再編の検討を進めていましたが、市民意見等を踏まえて府中駅接続などの現状を維持する案となっています。しかしながら、路線を維持するために補助金額が上がると持続性がなくなってしまうので、収入でのカバーとして、利用者数を増やす、又は運賃を上げるということが考えられます。利用者数の増加は、コロナ後の移動需要の変化などもあり、どうしても限界があるため。その場合運賃の値上げが必要となります。仮に運賃が今の 100 円が一律 1.5 倍くらいになった場合、逸走率を考慮しても収支率が 60 % 程度になるという見込みです。

○委員

そうすると、1.5 倍程度、150 円程度への値上げという形になりますか。

○事務局

今後経費等を事業者と調整しながら精査し、その経費を基に収支率 60 % を目指すための運賃を検討し、地域公共交通協議会でお示ししたいと思います。

○会長

再編計画としてはこの内容でよいと思いますが、利用が増えると当然収入増のスパイラルが生まれます。今は単純な予測の中で計画していますが、他自治体では、市民団体あるいは自治体等で連携しながら、特定の路線の利用者を増やすような取り組みをして、収支を改善しながらサービス水準を上げるというスパイラルアップの事例があります。今後の進め方については、関係団体と密に連携を取りながら、少しずつ良いシステムが出来上がっていくように努めていただきたいと思います。

○会長

議題 について了承としてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○会長

それでは議題 の地域公共交通ネットワーク再編計画(素案)に関するオープンハウスについて、事務局より説明をお願いします。

○事務局

(資料4に基づき説明)

○会長

オープンハウスについて、地域の方々に大変関係の深いテーマなので、是非PRをしっかりといただき、多くの市民の方がオープンハウスに来られる、またはこういう事があるということを知ることが極めて重要だと思います。関係される方はご苦労をかけるかもしれないが、よろしくお願いします。

○委員

市民活動センタープラッツは2月1日(土)から2月3日(月)まで開催されるのですが、ここでは職員の方の配置はないのでしょうか。

○事務局

プラッツには職員の配置の予定はございません。市の中心部で実施するオープンハウスとして、フォーリスでパネルの常設が出来ないか検討したものの難しいため、プラッツでしばらくパネル展示を行った後、フォーリスでは2月4日(火)に職員が一日常駐するため、ご質問のある方はこちらに来ていただくことになります。

○委員

土日祝日の職員の対応が難しいのはわかりますが、土日祝日しか行けない層の方々の意見を聞く重要な機会だと思いますので、可能であれば、どなたか1人でも来て下されると説明が十分伝わると思いました。

○会長

ありがとうございました。

議題 について了承してよろしいでしょうか。

(異議なし)

○会長

次第3その他について事務局よりお願いします。

○事務局

先程お伝えした通りオープンハウスを1月末頃から2月の初旬にかけて実施し、皆様からいただいた意見等を踏まえて、2月頃に必要に応じ事業者部会を開催し、3月中を目途に地域公共交通協議会の第3回を開催する流れになります。詳細な日程等についてはご連絡させていただきます。

○会長

タイトなスケジュールなので、関係機関で情報交換していただきながら、このスケジュールにのれるように進めていただきたいと思います。以上ですべて終わりますが、全体を通して何か言い忘れた、報告したいことはありますか。

(発言なし)

○会長

収支率とサービス水準は相反するものであり、収支率を上げようとするサービス水準を落とさざるを得ないというスパイラルを、日本中の自治体が悩んでいます。府中市は中でも、極めて合理的に、かつ関係機関と連携しながらやっている非常に良い例ではないかと思っています。良好な先行事例に是非なっていただきたいと思いますので、関係機関の方々にはこれからもご協力よろしくをお願いします。

それでは、本日の府中市地域公共交通協議会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。